

れてアメリカ・ポートランド近くのデルフィアンスクールに行っています。私が彼女たちから聞いたことは、ここでは「学ぶということ」はどういうことから学習をはじめています。何かをもっと知りたいのだが、障害ができると前に進めなくなることをここでは三つの言葉で表します。M.U.(misunderstood 誤解語)があるか、Too little mass(マスの不足)、階段の飛び越し(skipping gradient)の三つが原因としています。

M.U.とは自分が当然解っていると思っているところに誤解があり、そのために障害にぶつかっている訳で、それは今までの学習したところに戻って確かめることによりカバーできます。2 番目のマスの不足は実物を見たり、粘土表示(clay demo, demo kit)を使って表現したり、絵を描いたりして解釈していきます。3 番目の階段の飛び越しは、今までのところに問題があるのではなくて、ひとつステップを飛び越したからで、次で、すぐ前に戻ってもう一步進めば良いということです。

この学校では各自が毎日自己申告をして進んでいます。たとえば毎日字引で単語を何語引いたかとか、何ページ読んだとかを毎日自分で記録しておくことで昨日より今日の進み具合が遅れていれば何か障害があるとわかり、前に習ったところにさかのぼるという方法です。

この方法により、だんだん加速的に伸びてくるということです。帰った後を考えると、子供たちは確かに自分で自分のペースに合った勉強ができるようになり、勉強が退屈だったり、つまらなくなることがなくなっているとの報告を受けています。

One job one new thing という言葉でスタートします我々の会社は、新しい仕事に対して、前に比べて一つだけ新しいものにしていきます。ということは、階段を飛び越している訳ではなく、誰にでも出来ることです。それは又、**螺旋拡大的と呼んでいる発展**の考えにつながります。それは、連続しながら繰り返しながら少しずつ円の半径が大きくなっていくような発展形態をとっています。このような考え方から今の現時点での全力投球をするなということも言っております。それは円であれば、大きな円を描き始めるということです。今の小さな円を描く能力があるということは、少し時間経過後には、もっと大きな円が書けるということです。よく解らないが何日か後には、もっと面白いことが起こる、もっと旨いものが出てくると考えて計画を立てることを言っています。計画は自分の成長を組み込んだものであることが最も難しいものです。建物を建てる時に、工期が一年間あれば一年間のあいだの依頼主の成長と自分の成長を見込んだ設計図を一年前に作れるかそうかです。これが毎日生きていることの証と考えています。将来予測の一つの例として、私の会社で食品工場のスタディをしたことがあります。消防法、建築基準法、公害法を円形グラフの上にプロットしたことがあります。それは関連する法規を 1 項目ずつカードに書き、それをグラフ上にプロットしました。円全部を 100%とし、地区地域別にパーセント別にした面積に項目をプロットしますと、多い項目のところと少ない項目のところと少ない項目のところが出ました。**濃度**のむらにより、次のステップを予測しようとししました。薄い部分が次ぎの項目で表われると予測します。